

5. 大学研究解題：豊かで魅力ある地域資源と住民による観光まちづくり

[Japa 理事 佐竹 弘：元産学連携学会長・徳島大学教授]

政府の観光振興の裏に、地域環境の悪化などオーバーツーリズムの問題*1が指摘されている。また、自然災害の頻発化・激甚化、今回のような新型コロナウイルスなど人の交流に伴う感染症など、観光地の抱える課題はますます増大している。これらのことを考慮すると、今後の観光地の在り方をもう一度根本から真剣に考える必要がある。

また、観光地住民をないがしろにした一方的な経済優先の観光振興は、地域の住民調和を壊し、持続的な観光振興を望むことはできなくなる。地域の観光資源を維持・管理するのは、地域住民の協力なしにはあり得ないし、観光先での人とのコミュニケーションは観光客の心を癒し、長く心に残るものであることを忘れてはならない。

地方の観光振興は地域の対応体制に調和した受け入れや計画、地域にあった自律した観光振興を進めることが重要である。さらに、地域の地産地消観光や近隣地域や他地域との連携した観光プランニングは観光の魅力を最大限引き出すことができると考えている。

*1：<https://www.jtb.or.jp/wp-content/uploads/2019/01/bunka240-04.pdf>

*2：<https://www.jtb.or.jp/column-photo/column-machi11-goto/>

地域での観光まちづくりは、地域の観光協会等が中心となり、国や行政の補助金を活用して推進している。その取組みは、国土交通省・観光庁*3から「観光地域づくり事例集」が発行され、多くの事例とその成果が紹介されている。

*3：<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/ikiiki.html>

観光まちづくりに直接的、間接的に関係する大学の研究者は数百人以上になるが、その中で、文部科学省の科学研究費による観光まちづくり（観光地域づくり）研究の一部を下記のように分類して紹介する。一部を表1*4にまとめたので、報告書等を参照して欲しい。

*4：<https://japa-utob.wixsite.com/sangaku-renkei/160210>

K-1：組織形成：行政や市民組織など観光支援組織の研究

1) 「観光まちづくり」の計画技術の体系化は、①公共・公益性と事業性を融合する観光政策、②公民連携による観光まちづくり事業の推進プロセス、③地域資源の観光対象化と「地域観光」への展開方法、④環境管理・活用と、観光化のコントロールや観光地マネジメントの融合方法、⑤地域計画分野が観光に果たす役割提言、⑥地域観光プランニングを学ぶ教育開発の枠組み提示等をあげている。本プロジェクトには、観光分野の研究者が連携して実施され、多方面の事例をもとに地域観光プランニングを考察している*5,*6。

*5：<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-17H00901/>

*6：<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-26283016/>

2) 観光協会の日本版DMO化（Destination Management Organization）への変革：国策として注目を浴びるDMOについて主に組織論の視点から研究している*7。

*7: <https://seeds.mcip.hokudai.ac.jp/jp/view/142/>

K-2:食に関連する観光振興：地域の食文化、食産業など食と観光に関する研究

1) 北海道全域におけるまちづくりを食と観光から捉えた調査・研究である。市民参加、ひとづくり、地域ブランドなどまちづくりの概念、行政・農業などの北海道の現状、食と観光の北海道戦略、取り組み事例紹介など、総合的な観点から独自の論理・評価を展開している。まちづくりには地域住民とのコミュニケーションと自立した取組が一步になると強調している*⁸。

*8: <http://www.asa.hokkyodai.ac.jp/research/staff/kado/kitaoka.pdf>

2) 地域固有の風土に根ざした食文化を対象とした観光活動を「食文化観光」と定義し、食文化と観光活動の調査、「食文化観光」による地域生活への波及効果の研究を進めている*⁹。

*9: <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K12561/>

K-3:地域資源活用する観光振興：地域の自然環境・歴史文化などの活用法の研究

1) 豊かな自然環境を研究対象とする学術的成果を観光資源と捉え、研究活動を持続的に維持しながら、地域社会への正の影響を高める観光（リサーチ・ツーリズム）の概念の確立を目指し、世界自然遺産地域（知床、白神山地、知床、小笠原）を対象に研究活動が観光に与える影響を評価し、リサーチツーリズムの成立に向けて検討している*¹⁰。

*10: <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25560148/>

K-4:景観・環境整備（インフラ整備）による観光振興

1) 理想的な景観構造と現存する「湯けむり景観」の特性を比較することにより、大規模景観構成要素の「湯けむり」を活用した戦略的な景観整備の研究をしている*¹¹。

*11: <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-16760494/>

K-5:地域の魅力発信による観光振興：地域観光の戦略的プロモーション

1) 立地的に不利である県境地域を対象に、地域活性化策としての「交流」、「連携」の実態とその在り方を究明している*¹²。

2) 自然や地質、歴史や文化、産業などに関わる山河海の遺産群をつなぎ、川を軸とした広域観光を促進する「日本の流域遺産」構想の可能性を研究している*¹²,*¹³。

*12: <https://kankou-redesign.jp/pov/4673/>

*13: <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25501027/>

K-6:人的交流を軸とした観光振興による災害復興

1) 地震等自然災害を対象に、復興に向けた観光地の事例、復興観光、災害に対する抵抗力と回復力（災害弾力性）の測定指標などを解析している。災害地の歴史文化、食、景観などが災害弾力性の指標となる*¹⁴。

*14: <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-16H03334/>

2) 東日本大震災の復興についてヒアリング調査した。宿泊業の震災特需の発生、震災遺構を活用した教育旅行などがあり、地域内外とネットワークのある地域程、観光復興が進む傾向がある。また、災害を見据えた普段の地域連携が重要である*¹⁵。

*15: <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-17K02148/>

なお、表1に取り上げた観光まちづくりに関係する研究者の情報を表2*¹⁶にまとめた。次回は「地域住民とまちづくり」について紹介する。

*16: <https://japa-utob.wixsite.com/sangaku-renkei/blank-6>